

水俣病やガンの研究

熊大工、医学部に実験室

最近各分野でラジオ・アイソトープ（放射性同位元素）の利用が行なわれているが、熊大放射性同位元素委員会（委員長：四宮知郎教授）では、この研究のため昨年完結したトレーサー実験の「総合研究室」（医学部付属病院内）について、申請中の工学部と医学部

付属病院内の研究室もとのほど許可があり、工学部内に「中性子放射化研究室」付属病院内に「放射能臨床実験室」が今月中に完成。これまでの研究にさらに威力を増すことになった。

工学部内にできる中性子放射化実験室は三十三平方㍍で、これ

まで工学部内にあったアイソト

ープ研究室に増築したもので工

費は五百萬円。実験室には「中

性子発生機」が入れられるが、この機械は「物質中に中性子をあ

て一時的に放射能をもたせ、これの放射能で元素を確定して、その量をはかる」もので、

いっぽう医学部付属病院内の臨床実験室は耳鼻科下の病棟内につくられているもので、トレーサー実験が主になる。ここではヨード、リン、イオウなどの放射性同位元素をつかって施療が行なわれ、水俣病やガンなどあらゆる病気に対して研究される。

なお熊大放射性同位元素委員会は工、理、医薬の各学部の教授ら三十人からなり、毎年二回以上研究会を開き、意欲的な活動を行なっている。

五百円するという。この機械が入ると中性子の研究では旭大が九州で初めてで、医学ではガンや水俣病の研究、理学では生物の遺伝研究、工学では石油井戸の探さくなど広く利用される。また中性子発生機はX線機械と同じでスイッチを入れただけしか放射しないのでコバルト線源や原子炉のように防ぎよ壁などいうす危険性はない。

研究室には文部省の補助があつたが、中性子発生機は根本が自発的に同大学の予算内で買つたもの。